

# はばたきインクル支援だより



深谷はばたき特別支援学校 平成31年3月1日 No.7



「授業中の話を聞けない」という児童生徒のケースについて相談を受けることがあります。先生の話の話を聞くことができないと、学習の遅れはもちろん、行動面でも周囲の友だちよりもワンテンポ遅れてしまうことがあります。

「よく聞いて」と促しても、児童生徒の様子を見ると「聞いていないよね？」と感ずることがあると思います。なぜ聞くことができないのでしょうか？どう対応したらよいのでしょうか？今回は授業を聞けない児童生徒に対し具体的にどのようにかかわっていったらよいか考えてみましょう。



## 特集 授業を聞けない児童生徒には？

### 1 聞けない理由

WISCなどで児童生徒の様子を見てみると、以下のような理由が考えられます。

- ・ 語彙が少なく、先生の話の内容が難しすぎる。
- ・ 注意集中が弱く、そもそも聞いていない。
- ・ 教室内が騒がしく、どの声を聞きとればよいのかわからない。
- ・ 話を聞いていても、記憶の力が弱いので、情報量が多すぎて、聞いた内容を覚えられない。
- ・ 興味のある内容は聞き取れるが、自分にとって関心がないことは聞き取れない。

上記の理由を考えると「聞いていない」というよりは、「聞き取れない」という方が児童生徒の立場に沿っているのかもしれませんが。

### 2 聞き取りやすくする支援

#### (1) 語彙が少ない児童生徒の場合

##### ① 簡潔に伝える。

わかりやすい言葉を使う。○…集まる △…集合

「最初にトイレに行っておきます。次に廊下に並びます。」

「帽子、水筒、外靴を持って行きます。」

##### ② ゆっくり話す。

##### ③ 視覚的な支援を活用する。

言葉の指示は消えてしまうので、黒板に書いたり、実物を用意して、何度でも確認できるようにする。

#### (2) 注意集中が弱い児童生徒の場合

##### ① 予告をする。

「○○に持って行くものについて話します。」

「違うことを二つ話します。どっちの考え方にするか一つを選んでもらいます。」

- ② その児童生徒の顔を見ながら話をする。
- ③ 教室内の環境を整える。  
 先生の話に向けられやすいように、教室を静かにする。  
 視野に入るものは、その時に必要な情報のみになるように、教室を片付ける。  
 どこに注目したらよいかわかりやすく伝える。  
 サブの先生の動きや声かけを打ち合わせしておく。  
 友だちの言動が気になる場合は、座席を前の方にする。  
 大きな声で話すことは必ずしも注意を引き付けるものではないことを理解する。

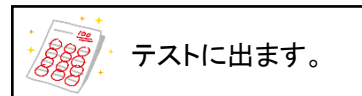
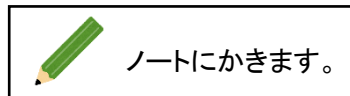
### (3) 記憶力が弱い児童生徒の場合

- ① わかりやすくするように補足説明をすると、話が長すぎて、結局聞き取れない。簡潔に伝えるようにする。
- ② 視覚的な支援を活用する。
- ③ メモを取るように促す。
- ④ 話した内容が聞き取れたか確認する。キーワードを復唱するような質問をする。「持って行くものは何ですか？」聞き取れていなかったら、繰り返し伝えたり、黒板に書いたり、メモしたものを渡す。

### (4) 関心のないことは聞き取れない児童生徒の場合

- ① 板書の文字が小さかったり、板書の量が多いと、見ただけで興味をなくすことがある。色分け、で囲む、イラストのマグネットを使うなど、関心を引くような工夫をする。

例:



- ② 学習の目的を伝える。  
 「これができると〇〇に役立つよ」を伝える。勉強のための勉強にならないようにする。  
 児童生徒に夢や目標を持たせるようにする。
- ③ 活動したくなる授業づくりの工夫をする。
  - ・ 興味関心のもてる教材を用意する。好きな活動・得意な活動・自力で活動できる教材や教具を取り入れる。活動や教材を自己選択できる場面を設定する。
  - ・ できる課題だけではなく、少し頑張らなければできないステップアップ課題を用意し、自分でできたという達成感がもてるようにする。
  - ・ 実態に応じて支援の量や方法を工夫する。
  - ・ 具体的に指示を出す。目で見てやるのが分かるようにする。
  - ・ 児童生徒が目標を理解し、学習過程に見通しをもてるように工夫する。
  - ・ 学習の振り返りを効果的に行い、次の授業への期待感を高めるようにする。
  - ・ 自信のない児童生徒は、発表の順番を後の方に回し、友だちの様子を見て確認してから活動できるようにする。
- ④ わかる授業づくりの工夫をする。
  - ・ 視覚的情報を活用する。見本を見せる、実物に触れる、完成した物を見せる、手順表を渡すなど、実態に応じて理解しやすい手段を取り入れる。
  - ・ 簡単明瞭に説明し、見通しをもてるようにする。
  - ・ 配付する資料や掲示する資料等が、児童生徒にとって見やすい大きさ・理解しやすい内容であることを確認する。必要に応じて、使用する漢字にルビを振る等の配慮をする。
  - ・ 実感を伴う理解につなげるための、体験活動を工夫する。